

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520368

研究課題名(和文) 20世紀ドイツ語圏スイス文学における多声性をめぐる研究

研究課題名(英文) On Polyphony in 20th century Swiss-German literature

研究代表者

新本 史斉 (Niimoto, Fuminari)

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：80262088

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：「標準ドイツ語」と「スイス・ドイツ語」の言語的差異、また「高尚文学」と「通俗文学」の作品受容の差異を意識しつつ、創作活動を行った最初の世代のドイツ語圏スイスの現代作家、ローベルト・ヴァルザー(1878-1956)、フリードリヒ・グラウザー(1896-1938)の作品の研究および翻訳を通じて、1920年代から30年代のドイツ語圏スイスにおける、多声的かつジャンル横断的な、新たな散文スタイルの成立過程を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Robert Walser (1878-1956) and Friedrich Glauser (1896-1938) belong to the generation of Swiss writers who first became aware of the difference between standard German and Swiss German, and who critically dealt with it in their novels. They were also very conscious about the dichotomy between “highbrow” and “lowbrow” literature in the 1920s/1930s, and established a new writing style by utilizing popular “lowbrow” literary genres of their time. In this research project, we explore the polyphonic, highly transgressive writing style of these two authors.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：ドイツ語圏スイス文学 多声性 身体性 ローベルト・ヴァルザー フリードリヒ・グラウザー 外人
部隊小説 推理小説 通俗文学

1. 研究開始当初の背景

現在、世界的に文学研究者、現代作家の注目を集め、多数の言語への翻訳が進められているドイツ語圏スイスの作家ローベルト・ヴァルザー (1878-1956) また、同時期、同語圏の多言語作家フリードリヒ・グラウザー (1896-1938) の作品を手がかりに一申請者のこれまでの翻訳実践、翻訳者間対話の経験に基づきつつ一多言語的背景を有するスイス文学作品に内包されている、文化創造の可能性を明らかにするための研究に取り組む。これに加えて、この研究の射程を現代にまで拡大するために、多言語的背景を持つ作家としても、翻訳者としても「越境」のテーマについて作品を発表し続けているイルマ・ラクーザ (1946-) さらに、言語の境界を越えて積極的に詩的対話を行っているスイスの若手詩人ユルク・ハルター (1980-) の研究にも、併せて着手することとした。

2. 研究の目的

- (1) 『ローベルト・ヴァルザー作品集 (全5巻)』での翻訳実践経験での知見に基づき、ヴァルザーのテキストがいかなる点において他言語への翻訳に抵抗するのかを明らかにし、それを通じていまだ十分に言語化されていないヴァルザーのテキスト固有の特質を明らかにする。
- (2) 国際会議の場において他言語へのヴァルザー翻訳者との共同討議を重ねることを通じて、日本語への翻訳に特有の問題を明らかにすると同時に、他言語への翻訳にも共通する普遍的問題を抽出する。
- (3) ヴァルザーと同じく、20世紀前半のスイスにおいて、多言語性を意識した創作活動をおこなったフリードリヒ・グラウザーの作品における多声的、ジャンル横断的な創作の詩学を明らかにする。
- (4) 翻訳者としてドイツ語-日本語間の連詩製作に参加することを通じて、「言語的越境」、「翻訳と詩作の共同作業」から生まれる新たな文化創造の可能性について知見を獲得する。
- (5) 古典作家クライストの作品に対して、比較翻訳分析の手法を用いた研究を行うことにより、多言語的視点から開かれうる新たな読解可能性を明らかにする。
- (6) 言語、文化に規定される「主体」構成のさまざまな様態について、多言語、多分野の論者からの論者が寄せられた書物へ寄稿することを通じて、ドイツ文学研究の枠を相対化し、学際的な知見を獲得することに努める。

3. 研究の方法

- (1) 文学作品の翻訳作業を通じての実践的アプローチ。
- (2) シンポジウム等での他言語圏の翻訳者・研究者との国際的討議。
- (3) 日本語、ドイツ語両言語での学术论文による研究成果発表。
- (4) 特集テーマを掲げた論集への寄稿による、他分野研究者との学際的対話。
- (5) 異言語間の連詩製作プロジェクトに翻訳者として関わることによる、文化創造への参加経験。
- (6) 一般読者向け書籍への寄稿による、研究成果の社会への還元。

4. 研究成果

- (1) 2010年に刊行を開始した『ローベルト・ヴァルザー作品集 (全5巻)』を研究期間内に完結させることができた。本作品集は日本国内における、ドイツ語圏文学研究者にとっても、またヴァルザーから刺激を受けた現代作家による新たな作品が生まれている英、仏、西語圏文学の研究者にとっても、今後の研究の基礎資料となるものである。(図書、)
- (2) 現代作家によるヴァルザー受容の最重要例ともいえる W・G・ゼーバルトの論集『鄙の宿』でのヴァルザー論について、批判的書評を寄稿した。(その他)
- (3) 国際シンポジウムにおいて、またヴァルザー研究における最新基礎文献『Robert Walser Handbuch (ローベルト・ヴァルザー・ハンドブック)』(2015)等において、ヴァルザー作品の日本語への翻訳がもたらす独自の知見について、詳細な報告を行った。その結果、ヴァルザー作品の日本語への翻訳の意義は、本国スイスにおいてもローベルト・ヴァルザー協会をはじめとする諸研究機関において認知され、高い評価を得ている。(雑誌論文、 図書、 学会発表、 、)
- (4) 日本においては、種村季弘による翻訳紹介以来、受容が途絶えていたフリードリヒ・グラウザーの作品が有する多声性について研究を行い、日本語、ドイツ語両言語による口頭発表、論文発表を通じて広く成果を発信することができた。(雑誌論文、 、 学会発表、 、 図書、)

(5)谷川俊太郎氏、ユルク・ハルター氏、エドゥアルト・クロプフェンシュタイン氏、および本研究代表者による日独連詩製作は、スイス、日本両国において高い評価を得て、この4名による連詩製作チームには、2012年、スイスのベルン州文学賞が授与された。(図書、学会発表)

言語の境界を越える多声的な対話から作品を生み出す試みはその後にも継続され、2014年、9月8-12日には、谷川俊太郎氏、ユルク・ハルター氏、フランツ・ヒンターエーダー・エムデ氏、および本研究代表者による日独連詩第二作製作のためのワークショップが津田塾大学で行われ、その様子はインターネットでも同時中継された。(その他)

この成果は2014年9月14日の連詩朗読会で公にされ、(その他)書物としては日独連詩第二集『48-Stunden-Gedicht (48時間の詩)』としてスイスのSecession社から2016年8月に刊行される予定である。(図書)

(6)作家、翻訳者、ジャーナリスト、自然科学者等が、ヨーロッパ、アジアの各文化圏における「主体」の様態について論じている書物に論文を寄稿し、学際的な観点から言語と主体の関係について考察する機会を得た。(図書)

(7)明石書店から刊行されているエリア・スタディーズ・シリーズの一冊『スイスを知るための60章』に寄稿し、上記の研究成果の一部を、広く一般読者に向けて伝えることができた。(図書)

(8)ローベルト・ヴァルザーも大きな影響を受け、作品を寄せている古典作家ハインリヒ・フォン・クライストについての日本における研究、受容について、ドイツ語による書誌および解説を作成し、学会誌に掲載した。(雑誌論文)また、さらなるクライスト研究として、比較翻訳分析の手法を用いた研究論文を執筆、発表した。(雑誌論文)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

新本史齋

「言葉は埃よりも、熱い空気よりも軽い」、あるいは、道徳外の意味における真実と嘘について — F・グラウザーの外人部隊小説『グーラマ』論序論、津田塾大学紀要、査読無、48巻、2016、1-18

新本史齋

アリバイとしての探偵小説、あるいは、精神医学に抗して書くこと — F・グラウザーの長編小説『狂人(マット)が支配する』試論、津田塾大学紀要、査読無、46巻、2014、97-130

新本史齋

『ペンテジレーア』における戦争の表象—比較翻訳読解の試み—、日本独文学会研究叢書、査読無、95巻、2013、49-61

Fuminari Niimoto

Walser Weltweit, Mitteilungen der Robert Walser-Gesellschaft, 20, 2013, 12-13

Franz Hintereder-Emde、Megumi Wakabayashi、Fuminari Niimoto
<In guten japanischen Händen> Uebersetzergespräch, Mitteilungen der Robert Walser-Gesellschaft, 19, 2012, 5-11

Fuminari Niimoto、Noriyuki Takamoto、Masanori Manabe、Heinrich von Kleist in Japan. Neuere Bibliographie、Neue Beitraege zur Germanistik、11.1、2012、246-277

〔学会発表〕(計9件)

Fuminari Niimoto

Mehrsprachigkeit, Akzent und Luege - Polyphone, koerperliche Wahrheiten in F. Glausers Legionsroman Gourrama. Hohe und Niedere Literatur Interkulturelle und intermediale Perspektiven einer problematischen Dichotomie、山口大学、国際会議、2015.3.28

Fuminari Niimoto

Robert Walser im Japanischen. Wie Robert Walser uebersetzen?、TAK Theater、Liechtenstein、国際会議、招待講演、2014.10.26

Fuminari Niimoto

Robert Walsers Spaziergang im Japanischen. Spaziergang in Tokio, Prosastueck in Paris. Villa Grunholzer, Uster, Switzerland、国際会議、招待講演、2014.10.24

Fuminari Niimoto

Robert Walser Weltweit. Podiumgespräch, 35. Solothurner Literaturtage, Solothurn, Switzerland、国際会議、招待講演、2013.5.9

Fuminari Niimoto

“Die leichte Hochachtung” in 20 Sprachen. Diskussion und Uebersetzungen. Podiumgespräch、University of Lausanne、Switzerland、国際会議、招待講演、2013.5.7

Fuminari Niimoto

Kriminalroman als Alibi. Hohe und niedere Literatur. Tendenzen zu Ausgrenzung, Vereinnahmung und Mischung、University of Lorraine, France、国際会議、2013.11.29

Fuminari Niimoto

Von den Schwierigkeiten, <einen hupfenden und parfumierten Vielschreiber und Vielwischer> zu uebersetzen. Die Gebrueder Walser und Japan. Museum Neuhaus, Biel, Switzerland, 国際会議、招待講演、2012.5.18

Shuntaro Tanikawa, Juerg Halter, Eduard Klopfenstein, Fuminari Niimoto Renshi-Lesung Japanisch-Deutsch, 34. Solothurner Literaturtage, Solothurn, Switzerland, 国際会議、招待講演、2012.5.19

新本史齋

『ペンテジレーア』における戦争の表象ークラリストの戯曲を読み直す、日本独文学会秋季大会、中央大学、2012.10.13

〔図書〕(計 9件)

Das 48-Stunden-Gedicht. Marie Kakinuma (ed.), Shuntaro Tanikawa, Juerg Halter, Franz Hintereder-Emde, Fuminari Niimoto Seccession, 2016. 64

Annie Bourguignon, Konrad Harrer, Franz Hintereder-Emde(ed.), Fuminari Niimoto Zwischen Kanon und Unterhaltung: Interkulturelle und intermediale Aspekte von hoher und niederer Literatur. „Worte sind es nur, Worte, in die Nacht gesprochen ...“ Polyphone koerperliche Wahrheiten in F. Glausers Legionsroman Gourrama, Frank und Timme, 2016. 462. (311-323)

ローベルト・ヴァルザー(著)、新本史齋、若林恵、フランツ・ヒンターエーダー=エムデ(翻訳)、『ローベルト・ヴァルザー作品集5』、鳥影社、2015. 380.

Lukas Marco Gisi(ed.), Fuminari Niimoto Robert Walser Handbuch, J.M.Metzler, 2015. 456. (410-412)

スイス文学研究会(編)、新本史齋 『スイスを知るための60章』、明石書店、2014. 390. (168-173、364-372)

Annie Bourguignon, Konrad Harrer, Franz Hintereder-Emde(ed.), Fuminari Niimoto Hohe und niedere Literatur: Tendenzen zur Ausgrenzung, Vereinnahmung und Mischung im deutschsprachigen Raum. Kriminalroman als Alibi oder Friedrich Glausers parodierendes Romanprojekt der Moderne, Frank & Timme, 2015. 465. (237-250)

Michael Mettler(ed.), Fuminari Niimoto Ortlose Mitte, Das Ich als kulturelle Hervorbringung. Inszenierung der

Ich-Fiktion auf der Buehne der japanischsprachigen Robert-Walser-Ausgabe. Wallstein, 2013. 237. (212-222)

Shuntaro Tanikawa, Juerg Halter, Eduard Klopfenstein, Fuminari Niimoto 『話す水 / Sprechendes Wasser』、Seccession, 2012. 65.

ローベルト・ヴァルザー(著)、新本史齋、フランツ・ヒンターエーダー=エムデ(翻訳) 『ローベルト・ヴァルザー作品集4』、鳥影社、2012. 312.

〔その他〕(計 3件)

Shuntaro Tanikawa, Juerg Halter, Franz Hintereder-Emde, Fuminari Niimoto 日独連詩製作ワークショップ、2014年9月8-12日、津田塾大学

Shuntaro Tanikawa, Juerg Halter, Marie Kakinuma, Fuminari Niimoto、日独連詩朗読会、2014年9月14日、代官山蔦屋書店

新本史齋 [書評]W・G・ゼーバルト 『鄙の宿』、図書新聞3169号、白水社、2014年

6. 研究組織

- (1)研究代表者 新本史齋
(Fuminari Niimoto)
津田塾大学・学芸学部・国際関係学科・教授
研究者番号：80262088
- (2)研究分担者 無
研究者番号：
- (3)連携研究者 無
研究者番号：